



Akita Prefectural Childcare Council NEWS LETTER



「コロナは落ち着いてきましたが…」

秋田県保育協議会 副会長 阿部 清美

今年4月からこども基本法の施行、こども家庭庁の創設、異次元の少子化対策と、子ども・子育て支援のために社会全体が大きく動こうとしています。

3年以上人々を苦しめた新型コロナウイルス感染症は、5月8日付けで5類に位置付け変更となり、対応が緩和されました。感染者・濃厚接触者の対応も変わり、マスクの着用、人の集まる行事や旅行・遠足、食事の場面など、徐々に制限が緩くなり、今ではコロナ以前に近い形で行えることが多くなりました。コロナ禍の恐怖や緊張、制限は今までにない経験で、私たちは日々の保育や行事の内容、感染症対策を見直しながらやっとここまで辿り着きました。しかし、待っていたかのようにインフルエンザが大流行し、感染症の心配は続き、気を緩められる時はありません。

コロナが落ち着き、活発に活動したいところでしたが、今年の夏は危険な暑さが続き過酷でしたし、大雨等の災害もありました。気温や水温が高すぎてプール遊びも心配しながら行い、運動会は運動が可能な暑さなのか確認しながらやっと開催。

そして11月現在は、今までにない熊の出没に怯え、家の敷地内も園近辺も周りを見回してからでないと移動できないような状態でした。せっかくの秋の自然の中を散歩することはできませんが、保育を工夫しながら楽しんでいきます。

コロナも異常気象も、今まで何十年も生きてきた中で初めて経験したことでしたが、生まれてから長くて6年ほどしか経っていない園児たちにとっては、生まれてこの方この通りです。これから先の世の中では何が起こるのでしょうか。子どもを取り巻く環境が変化の中で、子どもの人権が尊重され、心身ともに健やかに育ち、今も将来も幸福な生活を送れるよう、私たちは日々子ども達に寄り添い、最善の利益を求めて保育に努めなければならないと改めて思います。

さて、各園で子ども達と向き合いながら、より豊かな保育や子育て支援の拡充を目指して日々研鑽していますが、研究内容や成果を発表する場として保育研究大会があります。

来年度は第72回 北海道・東北ブロック保育研究大会を秋田で開催することになり、実行委員会を発足し各部門で準備が進められています。大会の成功に向かい知恵と力を合わせて取り組めるよう皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

8月3日(木) WEB開催『保育の質を高める研修会』

「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」

～自発的な遊び／学びを支え・促す「安心感の輪」～「赤ちゃんの発達とアタッチメント」

東京大学大学院教育学研究科 教授 同附属発達保育実践政策学 センター長
日本学術会議 会員(第一部会) 遠藤 利彦 氏

各研修会報告

子どもの内面について理解したいという思



男鹿市立 若美南保育園
保育士 菅原 想子

いがある私にとって、今回の研修は興味深いものでした。アタッチメントは子どもの成長にとって大切なものと学生の時に学び、日々子どもと関わる上で意識してきたものです。アタッチメントがいかに重要なものかを改めて知ることができました。

アタッチメントとは単なるスキンシップ(抱っこなどの皮膚接触)とは異なり、子どもが怖くて不安な時や感情が崩れた時に安心感を与えてあげること、また、一人の感情の崩れ

を誰かと一緒に元通りにすることと知りました。大人にとっては小さな悲しいことでも、子どもにとっては大きなことであり、その時に十分にアタッチメントの形成をしなかった子どもほど、後追い、抱っこの欲求が強くなるため、大切なことはそのタイミングを逃さず安心感を与えることという学びから、安心できる存在の重要性を感じました。また、子どもがいかに安心感のある中でいろいろなことを試し、見通しをもって探索することも、安心できる存在があるからです。保育園でその存在になるために、アタッチメントの重要性を意識しながらそれぞれの感情の変化に気づき、一人一人に寄り添った保育をしていきたいと改めて思いました。

いま現在、保育の現場ではいろいろ難しいと思う問題がたくさんある様に思いますが、この研修の中で「育児を難しくとらえない」という言葉が印象に残りました。子どもと私たちを取り巻く状況は刻々と変わっていきます。子どもにとって「安心できる場」があることが心の発達や社会に出て様々な人と関わっていく時にどれだけ力になるのかを学び、考えさせられました。

怖くて不安な気持ちの時にあそこに行けば大丈夫！と思う場所に逃げ込んで安心感を与えてもらい、また頑張ってみようという気持ちになり、やがて一人でどうしたらよいかを考え決めていけるようになる。この繰り返しで周り

の人を信じる
気持ちや心

湯沢市 みたけこども園
栄養士 高橋 明子



を強く育てていき、それが成長していくことなのだ」と改めて考えさせられました。

様々な経験をしてきた私たち大人も初めてのことにドキドキしたりするのですから、生まれて数年しか経たない子ども達にとって毎日の様々な出来事はドキドキの連続だと思います。周りに助けてくれる人がいるのだと、生まれた時から身体で感じることができる環境が子ども達のその後の育ちにとっても大切だということを忘れずに仕事に向かうことが、実は様々な難しい問題もどうしたらよいかが見えてくるきっかけになるのかと思いました。

『第32次保育士研修会』

・6月27日（火） 秋田県社会福祉会館8階合同研修室

「保育のすてっぷワン！」 大館市教育研究所 副主幹 山本 多鶴子 氏

・7月21日（金）WEB開催

「子どもにかかわる人にとって大事なこと」中居林こども園理事長 保育総合研究会 代表 椋沢 幸苗 氏

・10月3日（火）・6日（金）秋田市下浜 清太郎の森「清太郎さんの森で遊ぼう」 佐藤 清太郎 氏



由利本荘市 矢島保育園
保育士 佐藤 萌々子

第32次保育士
研修会『豊かな感

性と広い視野を保育の中へ～信頼される保育士になるための一歩～』を計3回受講しました。

1回目は時代とともに変化してきた子どもの姿、経験不足による不器用病やメディア機器接触時間の増加による目の動きの悪さ等から、今までは生活の中で自然に身に付いた力をこれからは経験する機会を作っていかなければならないことを学び、時代に合わせて保育も変化する必要があると実感しました。

2回目は遊びの環境や保護者対応等、具体的な例を挙げた講話でした。すぐに取り入れられるものが多く、自分の保育と照らし合わせて考えることができました。

保育者として働き始めて3年目となり、日々の保育に自信を持ちつつも悩みがある中、この研修を受講し、保育者が基本とする「子どもの目線に立って話す」「子どもが何に対して関心があるのかを見逃さないようにする」ことが大切だと再確認しました。



また清太郎さんの森での体験は、自然にふれる経験を通して生きる力や未知のことへ挑戦する意欲が育つことを学びました。この活動から、幼児期だからこそ経験できる自然での学びを自分自身の保育の中で実践し、子どもの反応から試行錯誤する楽しさ、面白さを感じたいと思いました。今までは子どもとかわる

3回目は「健康の森」での実践研修で、危ないと感じる物が多くありましたが、挑戦したい気持ちも沸き起こりました。

「危ない！」と声をかけられる子どもの思い



を感じると共に、子ども達は自分で実際に危険を感じる体験をすることで、その危うさを納得できるのだと改めて感じました。

グループ討議では同じ悩みに共感し合ったり、対応の仕方を共有したりと有意義な時間を過ごすことができました。今回学んだ保育士としての基礎をしっかりと築き、これからの学びも深めていきたいです。

横手市

幼保連携型認定こども園 相愛こども園
保育教諭 柴田 あずさ



際、危険なことがあると止めたり、「できない」という子どもにはすぐやってあげたりしていましたが、かかわりを工夫し見守っていくことが子どもにとっての成長にもつながると感じました。

研修を通して、子どもの「やりたい」という意欲を引き出せるような肯定的な言葉がけを意識し、子どもの経験を広げるために、感触など五感を刺激することができる環境の工夫を行えるよう日々の保育をしていきたいと思えます。今後も自分の保育を振り返り、活動の幅を広げ、保育者としての経験を積み重ね成長していきます。



秋田市 こどものくに保育園
保育士 浅利 加奈

今回、臨
床心理士の

大竹 直子 先生による研修に参加しました。日頃、私たち保育士は子どもとかかわる際に名前を呼んだり、アイコンタクトをとったり、うなずきやあいづち等で応答していますが、この積み重ねにより子ども達は安心して園生活を過ごし、保育士との信頼関係を築くことにつながると改めて気づきました。そして、このような応答の技法は保護者とのかかわりの中でも使うことができ、保護者とのかかわる際に、同じようにあいづちや、ミラーリングなどがあると安心して話ができ、受け入れてもらえていると感じることを知り

今回は大竹直子先生による「子どもを考える・理解するカウンセリングセミナー」と題した研修を受講しました。研修では「保護者との関係作り」「傾聴の仕方」「子どもへの関わり」「怒らないですむための工夫」「リフレーミング」など、様々な保育に関わる実践的な手法について学ぶことができました。

特にその中でも、子どもの悩みを「どう解決するか・どう対応するか」ではなく「どう理解するか」について着目し、子どもの視点に立って保護者と保育者が一緒に考えて

ました。傾聴とは「話の内容や相手の感情を丁寧に聴き取る態度」、分かるとは「分かち合う。その人があるがまま受け入れ寄り添うこと」という箇所が心に残りました。私も保護者対応の際は伝えたいことばかりに集中しないよう、保護者の気持ちに寄り添って話すことを意識したいと思っています。

また、先生のお話で、子どもとかかわりで大切なことは「ほめる」よりも「認める」「一緒に喜ぶ」といったことが印象に残りました。子ども達一人一人のそのままの姿が認められ安心して自分をだして過ごせるよう今後の保育に活かしていきたいです。

いくことの重
要性を感じま

大仙市 日の出ベビー保育園
保育士 鈴木 夏美



した。子どもを思う気持ちは共通なので、相手の気持ちを受け止めて一緒に考えていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

物事の結果や結論だけに目を向けず、そこまでのプロセスに重点を置き、保護者とのよりよい関係性の中で、子ども達の成長を共に喜び、見守ることのできる保育者を目指していきたいです。

10月12日（木）『令和5年度 全国私立保育園連盟 北海道・東北ブロック保育研修会』

【情勢報告】 全国私立保育連盟 常務理事 齊藤 勝 氏

【講 演】 「保育の今、これから」～見直そう！0・1・2歳児保育～

東京大学名誉教授・日本保育学会理事 汐見 稔幸 氏



三種町 浜口保育園
保育士 豊田 千春

今回、汐見先生に
よる講演を聞かせてい

ただき、0・1・2歳児保育の大切さ、非認知能力を育てる大切さを改めて感じました。

以前、非認知能力とは日々の生活や遊びの中で身に付けていったものという話を聞き、私自身、子どもの頃は原っぱや道路などで年齢関係なく遊んでいたことを思い出しました。自分たちで遊びを考えて自由に遊び、時には怪我をして「これは危ないことなんだ」と自分で気を付けて遊ぶことを身に付けたと思います。しかし、時代の変化と共に、遊ぶ場所に制限をかけてしまったり、遊びや

生活において大人が誘導してしまったりすることもあり、子ども自身が試行錯誤しながら様々な経験を重ね、体験を通して育っていく機会が少なくなっているように感じます。自園では、子どもの「これはなんだ？」「楽しそうだな。やってみよう」という探求心やわくわく感を高めていけるような環境構成について、保育研究を行っています。講演の中で、プロセスを充実させていく保育を行っていくと共に、保育を振り返る時間の大切さを学びました。

今後はさらに非認知能力を育ていけるような保育の環境構成をし、保育の質の向上に努めていきたいと思っています。

以前より、汐見先生の保育観を尊敬しており、今回の研修も心から楽しみに参加させていただきました。楽しみにしていた研修は、やはり私を色々な意味でドキッとさせるような内容でした。

とある園の事例では、遊びの内容を保育士が考えたり、環境を整えようとしても子どもが玩具をバラバラにしたりと自園と重なるものがありました。知育玩具の導入や保育環境の話し合いを園全体で行っていくことで、保育士の意識や保育環境が少しずつ変化していくことに感銘を受け、自園でも取り入れていきたい内容だと感じました。

今まで、質の高い
保育を行う人員や
時間が足りない…と

秋田市
南通りすこやか保育園
保育士 矢野 華帆



言い訳ばかりをして、目を逸らしていたことを反省し、より質の高い保育ができるよう、今回学んだことを職員間でも共有し、子どもだけでなく、保育者も楽しいと感じる環境づくりを行っていききたいと思います。

また、子どもの非認知能力を育て、自分で考えることができる子ども、自分を大切に、他者も大切にできる子どもを育てていけるよう今後の保育に活かしていきたいです。

9月13日（水）～15日（金）

（社福）日本保育協会 青年部 主催

『第44回全国青年保育者会議 熊本大会』 参集(KKRホテル熊本)・WEB開催
大会テーマ「園JOY！～保育をしこたま楽しむばい～」大仙市 日の出ベビー保育園
園長 吉川 壮

日本保育協議会青年部により熊本県で3日間に渡って開催された大会でしたが、参加は現地かオンラインが選択でき、今回はオンラインにより参加しました。

（ZOOM等ライブ配信ではなくオンデマンド方式により行われ、大会の様子を撮影した動画を大会終了後に約一か月間に渡って視聴ができました）

大会では、こども家庭庁の状況や「こども誰でも通園制度」など各施策の進捗のほか、講演では共主体（子ども・保育士の両方の主体性）の実現への手立て、発達障害・愛着障害や孤立に起因する母親の乳児遺棄

の背景など、保育課題の旬な話題を学ぶことができました。

講演で共通することは「いかに子ども（もしくは孤立する母親）の声に気づき、傾聴して行動できるか」にあり、講演中にあった「子どもは一回しか助けを求めない。その時に応えることができなければ子どもは助けを求めなくなる」の言葉にハッとさせられました。子どもの「今の姿・声」に応えられるよう、柔軟な園体制を考える必要性を感じました。今回は秋田県保育協議会より費用補助を受け、当会青年部の令和5年度事業の一環により部の代表として参加しましたが、非常に貴重な経験となりました。ありがとうございました。



11月1日（水）～2日（木） （公社）全国私立保育連盟青年会議 主催

『第42回全国私立保育連盟青年会議 広島大会』

広島国際会議場・JMSアステールプラザ

大会テーマ「こどもたちと平和な未来を～そりゃあ平和が一番じゃろお～」

にかほ市 星城こども園
副園長 今野 真洋

今秋11月1日、2日の日程で全国私立保育連盟青年会議広島大会へ参加させていただきました。大会テーマ「こどもたちと平和な未来を～そりゃあ平和が一番じゃろお～」の通り、被爆地広島の現状と子どもの未来を考える貴重な時間を過ごさせていただきました。大会初日の広島プログラム①、②では被爆ピアノの演奏や原爆ドーム周辺のフィールドワークを通し、過去の惨状を体感いたしました。その後、第3分科会「保育」にて北海道の子ども発達臨床研究センター准教授の川田先生より講話いただき、何かの遊びに熱中している間の「あそび」とそ

れ以外のニュートラル状態の「あそび」、これら二つに意味があり、後者の「あそび」が現代の子どもに不足していることを知りました。情報交換会では、他県の先生方と現状や過疎地域の施設運営について熱く語りました。

大会2日目は、齊藤 勝 常務理事による情勢報告を受けました。今年度の公務員の基本給改定にあたり、年度末には公定価格へ反映される見通しとの事で、更なる処遇改善が期待される内容でした。このような全国規模の大会は、県単独の大会とは違った運営スタッフの熱気が強く感じられ、研修参加に推薦いただいた本会に感謝申し上げ報告といたします。



「こどもたちと平和な未来を」というテーマのもと、11月1日、2日に平和記念公園近隣を会場に開催されました。全体会は『広島プログラム』と掲げられ、被爆の実相に触れ、胸が張り裂けそうな思いになると同時に、命の重みと輝きを背負って平和な世界の実現のために伝え続ける広島の皆様の姿に敬服しました。

その後の分科会『こどもが自ら考えて行動する力を育むボトムアップ理論』（講師：畑 喜美夫 氏）や記念講演『こどもたちの未来を作る』（講師：為末 大 氏）においては、コミュニケーションにおける肯定的なストロークや幼少期の肯定感という土台が大事であるとお話があり、

大会実行
委員長の横手市 浅舞感恩講保育園
園長補佐 奥山 浩太

「私たち保育者が他者との関わりを大切にし、お互いの多様なあり方を認め合い、こどもたちと共感しあえば、自ずと人と人之间には平和の心が生まれてくると思います。」との言葉と繋がっていることを感じ、これまでの自園での職員と子どもや職員間の関わりについて振り返りかけをいただきました。

今回初めて全国大会に参加させていただきました。全国大会の日程、会場設営、雰囲気、全国の青年部員との交流などを体感する貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。



11月16日(木)・17日(金)

『第66回全国保育研究大会 大分大会』報告

別府国際コンベンションセンター「ビーコンプラザ」

11月16、17日に行われた第66回全国保育研究大会大分大会に参加しました。私にとつて初めての大分県の地にワクワクしたのも束の間、会場の別府国際コンベンションセンター「ビーコンプラザ」に到着すると、その佇まいに圧倒され、とてつもない緊張感に足がすくむ思いでした。

今年度研究発表をするにあたり、こだわったひとつがパワーポイントの作成でした。30分間見続けて疲れないように、そして伝えたいことが一目で伝わるように、派手な色彩は避けて使う色を最小限に絞り、装飾もできる限り省き余白を確保していくことで、文字の強弱がつく表現を心がけました。また、一枚のスライドに情報を詰め込みすぎないようにしました。見た方に「見やすかった」「内容がスラスラと入ってきた」と感想をいただいた時には、職員全員の取り組みの思いを届けることができた嬉しく思いました。

今回、素晴らしい舞台上で発表をさせていただいたことは、身に余る大変貴重な体験となりました。たくさんの皆様のご指導やご協力をいただき、支えられたお陰だと思っております。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。学び得た保育施設のもつ「地域の子育てを支援する機能」「人や世代をつなぐ機能」の役割を忘れずに、これからも取り組んでいきたいと思えます。



雄物川保育園 保育士 恩田美加子

県保協HPから各申請書がダウンロードができます！

災害互助制度について

会員園がお互いに助け合いの精神によって災害互助制度を設け、保育活動の充実に寄与することを目的としています。園内外の保育活動中はもちろんのこと、園児の登降園中や職員の通勤途中の事故に対し、被災者にお見舞金を給付する制度です。

地域交流助成事業について

会員園同士が個々の活動を越え、2か所以上の施設が連携して行う地域交流活動に対し助成するものです。申請は事業開始1か月前まで、報告は助成事業完了後2か月以内に本会長あてに報告してください。(期限後も受付可) 皆様への周知・浸透を図っています。

雄物川保育園 保育士 大日向綾子

第7分科会の全ての発表が終わった時に各発表園に向けて感想や励ましの言葉、メッセージをいただきました。「地域に向けてできることがたくさんあるのだと驚くことばかりでした。貴重なお話が聞けて良かったです。」「様々なかたちの『つながり』をととても大切にされていることがわかりました。私たちもできることからやってみようという元気をもらいました。」など、ここには載せきれないくらいの温かいメッセージをいただきました。雄物川保育園の今までの取り組みを全国の方々に伝えることができ本当に良かったですと改めて思いました。



各会議等報告(令和5年12月上旬までの活動)※発行時期により実施部会と予定が前後する場合があります。

令和5年度 第2回常任委員会報告

令和5年8月10日(木) 14:10~17:10
場所：県社会福祉会館9階 第4会議室

【参加者】

会長・副会長、各部長、中央関連委員、事務局

【協議事項】

- (1) 令和5年度各事業部の進捗状況について
- ・総務部 規定の一部改正案提出
- 会則第二章 役員(選任)第16条 項の追加、
- 2. 常任委員は会長が委嘱する

- 3. 部員は会長が委嘱し、正副部長は部会の互選とする
- 4. 顧問は常任委員会の同意を得て会長が委嘱する

- 災害互助規程第4章 会議(災害互助委員会)第10条 2項 小項目追加、
- 2 災害互助委員は、第1条の目的達成のため次に掲げる事項を処理する。
- (4) 様式に関する事項

地域交流助成事業実施要綱第2条 事業対象 文言削除、等の一部改正について常任委員会へ提案する

- ・ 広 報 部 今年度1回目の『瓦版』の発行はお盆明けとなる。紙面版ではなく全てホームページにアップする予定。今後、保協のホームページを活用しやすくするため、業者さんを含めて打合せを行う。全私保連の署名用紙発送作業を行う。
- ・ 研 修 部 第32次保育士研修会、保育の質を高める研修会、保育カウンセリングセミナー、の実施。10月北海道・東北ブロック研修会に向けて準備中。
- ・ 研究大会部 令和6年度北海道・東北ブロック保育研究大会に向けて準備中。次年度秋田県大会の選考会を5月30日か31日に開催予定しているが、その時の助言者12名を検討中。
- ・ 運営研究部 公定価格の勉強会を9月19日開催予定。園長セミナーは11月下旬予定で、全国保育研究大会で発表する雄物川保育園に願います。
- ・ 青 年 部 今年度北海道・東北ブロック研修会を開催予定。三者協定などの取り組みを紹介予定。次年度北海道・東北ブロック保育研究大会の渉外部として活動をしていく。
- ・ 日 保 協 北海道・東北ブロック 6月27日に秋田県知事へ過疎地域の保育対策推進に関する要望書提出（会長 大友 潤一、副会長 九嶋 洋子、日保協県支部長 上村 清吾）7月研修会（いわき開催）現地参加

女性部：5月 総会 オンライン参加 7月 研修会（いわき開催）現地参加
10月 創立60周年記念全国研修大会（女性部50周年）

青年部：7月 研修会（いわき開催）現地参加
第44回全国青年保育者会議熊本大会（日保協）1人オンライン参加。

- ・ 私 保 連 青年部：幹事会 5月 全国保育会館 現地参加 7月 全国保育会館 現地参加
第42回全国青年会議広島大会（全私保連）1人現地参加
北海道・東北ブロック幹事会 6月 WEB開催 8月 秋田市内
北海道・東北ブロック研修会 11月 横手市内にて開催

(2) 令和6年度からの会費について

総務部より会費改定のスケジュールの説明を受け審議する。全会員に向け公立保育所の会費改定のお知らせをメール送信する。

(3) その他

記録的な大雨による自然災害申請書の審査をする。

総 務 部

部 会 報 告

【今年度計画】

- ① 新たな会則・規約の情報発信及び内容検討
- ② 災害互助制度及び地域交流助成事業の活用の推進
- ③ 予算の執行状況の把握、各部の活動に向けての支援
- ④ 総会開催の準備



総務部長 島山 柳子
横手市 雄物川保育園 園長

【実施した部会】

第2回 日時：7月28日（金）13：30～16：00 場所：保育協議会 会議室

内容：常任委員会報告、会則の追加・変更、地域交流助成事業、公立部会の会費

第3回 日時：12月7日（木）13：30～15：15 場所：WEB開催

内容：上半期の予算執行状況、災害互助（自然災害のとらえ方）、地域交流助成事業
第72回北海道・東北ブロック保育研究大会

【今後の部会予定】

第4回 日時：3月予定 場所：保育協議会会議室 or WEB開催 内容：総会に向けた準備

【部からのメッセージ】

合同部会後の常任委員会で上がった内容の検討を第2回目の総務部会で行い、その報告を常任委員会で伝えてきました。第3回目の総務部会では、上半期の予算執行状況について確認しました。春の総会でお伝えしました通り、1年目の方針として繰越金には手を付けず、切り詰めた予算構成でしたので、予算に対しオーバー気味の部があるものの、概ね良好のようです。今年度の動きを見て次年度の予算に結び付けることだと思っております。前回同様になりますが、今

あるものが最終形ではなく、進化形ととらえ柔軟に対応していきたいと思っております。

また、災害互助制度並びに地域交流助成の各種申請利用が進んでおり、周知されてきたのかなと嬉しく思っております。再度のお願いになりますが、申請書につきましては県保育協議会のホームページからダウンロードできますので、新しい様式をご利用いただきたいと思います。新組織をより良好なものにするためには、是非皆様からのご意見・ご感想が必要です。

よろしく願いいたします。

研 修 部



研修部長 飯田 裕美子
秋田市 ウェルビューいずみ
こども園 園長

【今年度計画】

- ① 令和5年度 第32次保育士研修(6/27、7/21、10/3・6 計3回)の実施
- ② 第19回 保育の質を高める研修会(8/3)の実施
- ③ 第26回 保育カウンセリングセミナー(8/31)の実施
- ④ 令和5年度 全私保連 北海道・東北ブロック保育研修会(10/12)協力
- ⑤ 令和6年度 北海道・東北ブロック保育研究大会の計画

【実施した部会】

○第4回 日時：8月22日(火) 10：00～11：00 場所：WEB開催

内容：第26回 保育カウンセリングセミナー(8/31)

令和5年度 全私保連 北海道・東北ブロック保育研修会(10/12)

令和6年度 北海道・東北ブロック保育研究大会(R6.7/10～11)

○第5回 日時：9月26日(火) 15：00～16：10 場所：WEB開催

内容：第32次保育士研修会(10/3、6)

令和5年度 全私保連 北海道・東北ブロック保育研修会(10/12)

○合同部会 日時：10月2日(月) 15：00～16：00 場所：WEB開催

内容：令和6年度 北海道・東北ブロック保育研究大会(R6.7/10～11)

【今後の部会予定】

○第6回 日時：1月

内容：令和6年度 北海道・東北ブロック保育研究大会(R6.7/10～11) 進捗状況の確認

○第7回 日時：2月

内容：今年度の振り返りと来年度に向けて

【部からのメッセージ】

32次保育士研修会において、4年ぶりに清太郎さんの森での実践研修を行うことができました。新採用から経験5年の若い先生たちが童心にかえて活動しました。特に、雨の中で落ち葉や柴を集めマッチで火をつけた火起こしは貴重な

体験になり、改めて「生きる力」について考える機会になりました。

今後も学びの多い研修の機会を提供できるように取り組んでまいります。

【今年度計画】

・令和6年度北海道・東北ブロック保育研究大会発表に向けての準備

研究大会部



研究大会部長 田口 志織
秋田市 こぐま保育園
園長

【実施した部会】

○第1回 日時：9月4日（月） 13：30～16：00 場所：保育協議会 会議室
内容：令和6年度北海道・東北ブロック保育研究大会について
研究大会部の活動確認

○第2回 日時：11月20日（月） 13：30～15：00 場所：保育協議会 会議室（WEB併用）
内容：北海道・東北ブロック保育研究大会への選考発表会
令和6年度第72回北海道・東北ブロック保育研究大会

【今後の部会予定】 ○第3回 日時：1月中旬 内容：保育研究大会発表園の原稿の確認

【部からのメッセージ】

秋田県保育協議会会員の皆様には、日頃よりご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

令和6年5月30日・31日に、秋田県社会福祉会館にて、北海道・東北ブロック保育研究大会への選考発表会を開催いたします。令和6年7月10日・11日に、秋田キャスルホテルにて、第72回北海

道・東北ブロック保育研究大会を開催いたします。

部員一同、選考発表会、保育研究大会ともに、皆様が、明るく楽しく元気よく学べる事ができますようにとの思いを込めて、開催準備を進めております。

会員の皆様の、たくさんのご参加を心より願っております。

運営研究部



運営研究部長 吉川 誠治
にかほ市
ひまわり保育園 園長

【今年度の計画】

- ・公定価格勉強会の開催 ・園長セミナーの開催
- ・人口減少地域における園運営についての研究の継続

【実施した部会】

合同部会 日時：6月5日（月） 13：30～15：00
場所：秋田県社会福祉会館 10階 大会議室
内容：部長・副部長選出、令和5年度事業の推進確認

第1回 日時：6月29日（木） 13：00～15：00 場所：WEB開催
内容：令和5年度の活動、公定価格勉強会の開催、園長セミナーの開催、研究について

第2回 日時：8月4日（金） 13：00～15：00 内容：公定価格勉強会の開催

第3回 日時：11月14日（火） 13：00～15：00 場所：WEB開催
内容：園長セミナー、公定価格勉強会プロジェクトチーム

【今後の部会予定】 第4回 時期：令和6年1月予定

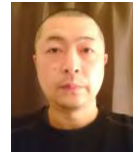
【部からのメッセージ】

秋田県保育協議会会員の皆様には、日頃よりご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

全国各地、秋田県内においても、ここ近年、人口減少に伴う少子化で、園運営が非常に困難になっております。このような状況の中で様々な情報、又は取り組みなどを聞き取り発信していきな

ど、少しでも会員園の皆様に役立つ研究、発信を考えております。

今期2年間、運営研究部として、今求められている課題の研究、研修を計画して行くに当たり、会員園の皆様には多くのご協力をいただくことになると思います。ご理解とご協力をお願いいたします。



広報部長 川嶋 博英
由利本荘市
子吉保育園 園長

【今年度計画】

・広報誌『保育あきた』の発行 ・年2回の『瓦版』の発行

【実施した部会】

○第2回 日時：7月27日（木）13：30～16：00

場所：保育協議会 会議室

内容：『瓦版』原稿確認と誤字脱字の修正作業
県保協のホームページ、全私保連の署名活動

○第3回 日時：10月20日（金）13：30～16：00 場所：WEB開催

内容：『瓦版』12月の発行、広報誌『保育あきた』、
北海道・東北ブロックでの渉外部としての役割について

○打ち合わせ 日時：11月1日（水）13：30～① + 14：30～② 場所：WEB開催

内容：『瓦版』の研修報告を、各研修会参加者名簿を見て決定し、担当部員を決める

○第4回 日時：11月27日（月）13：30～16：00 場所：保育協議会 会議室

内容：『瓦版』12月発行予定の校正作業（修正作業）、広報誌『保育あきた』について

【今後の部会予定】

○第5回 日時：11月下旬予定 内容：『瓦版』の校正・原稿修正等

【部からのメッセージ】

今年度2回目の『瓦版』を発行致します。研修に参加された方々の報告、組織として各部がどのような取り組みをしているのかご覧になっていたかと思えます。

3月に発行を予定している広報誌『保育あきた』についても、会員園の皆様にとって有意義な情報発信となるよう部員一同頑張っております。今後とも広報活動へのご理解ご協力を宜しく願います。

青 年 部



青年部長 伊藤 昌人
横手市 旭保育園 園長

【今年度計画】

- ① 青年部研修会の企画および運営
- ② 他部との連携の推進
- ③ 青年部および県組織の魅力および情報の発信
- ④ 人材発掘および部員確保のための継続的な取り組み
- ⑤ 全国組織（全保協、日保協、全私保連）の活動への参加

【実施した部会】

第2回 日時：8月2日（水）13：30～16：00 場所：WEB開催

内容：青年部研修会、全国大会への参加について等

第3回 日時：10月18日（水）14：00～16：30 場所：WEB開催

内容：青年部研修会について等

第4回 日時：11月9日（水）14：00～15：00 場所：WEB開催

内容：全私保連青年会議「北海道・東北ブロック」情報交換会、令和5年度 青年部研修会

○令和5年度 秋田県保育協議会青年部研修ならびに

全国私立保育連盟青年会議北海道・東北ブロック情報交換会

日時：11月24日（金）15：00～17：00 場所：よこてシャイニーパレス（横手市）

内容：秋田県保育協議会の取り組み紹介、意見・情報交換など

【今後の予定】

日時：令和6年1月予定 内容：北海道・東北ブロック 渉外部、青年部研修会について

【部からのメッセージ】

今年度の青年部研修会では、全私保連北海道・東北ブロック青年会議とのタイアップとして、県保協の活動紹介・魅力発信、ならびに各地区青年部員との交流を通じて、他地域の取り組みを知ることや人脈作りを目的に実施する予定としております。

また、日保協ならびに全私保連の全国大会に3名の部員が参加させていただきました。得たことを今後の部の活動に、そして会員の皆様に還元していければと思います。

今後も青年部の活動に対して、ご理解・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

災害互助・地域交流事業 活用状況（R5.12.25更新）

【災害互助】 傷害治療見舞金：25件

自然災害：6件

入院 5級 1件 通院 5級 3件 6級 3件
7級 1件 8級 2件 9級 9件

【地域交流】 9件

これからも皆さまにとって活用しやすい制度を目指してまいります。お気づきの点がございましたら、事務局までお寄せください。



行っている事業がありましたら、対象となるか確認してみてください。



発行担当 広報部メンバー

副会長：岸 大助 部長：川嶋 博英 副部長：佐川 ひとみ 津村 侑弥
部員：相馬 千春 鈴木 直子 南部 芳道 西村 優子
仲塚 鈴香 大門 ヒサ子

編集後記

冬至。一年で昼の時間が最も短くなる日。そして秋田県は日照時間が短い。どんよりしますね。
だがしかし！子どもたちの笑顔を毎日見ることのできる私たちは幸せですね。かぼちゃを食べて栄養を補給し、ゆず湯に入って身を清め、来年こそは
がんばるぞ！（Y.M）



全私保連推奨

各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



公益社団法人
全国私立保育連盟



東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

「国賠償責任保険（新型コロナウイルス等対応費用補償特約付帯）」
「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育児費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

24時間のおケガ等からお守りすることに加え、自転車条例で義務化されている個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱
代理店

有限会社ゼンポ

TEL：03-3865-3881
FAX：03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社：公務二部 文教公務室 TEL：03-3515-4134

このチラシは、このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款により、ご不明点がございましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

22TC-102447 2023年2月作成